

集団面接の事例紹介

-- 九州大学21世紀プログラムを例に --

林 篤裕

(名古屋工業大学 社会工学専攻
& アドミッションオフィス長)

e-mail: hayashi.atsumuro@nitech.ac.jp



資料掲載URL: stat.web.nitech.ac.jp/haifu/#FD2109

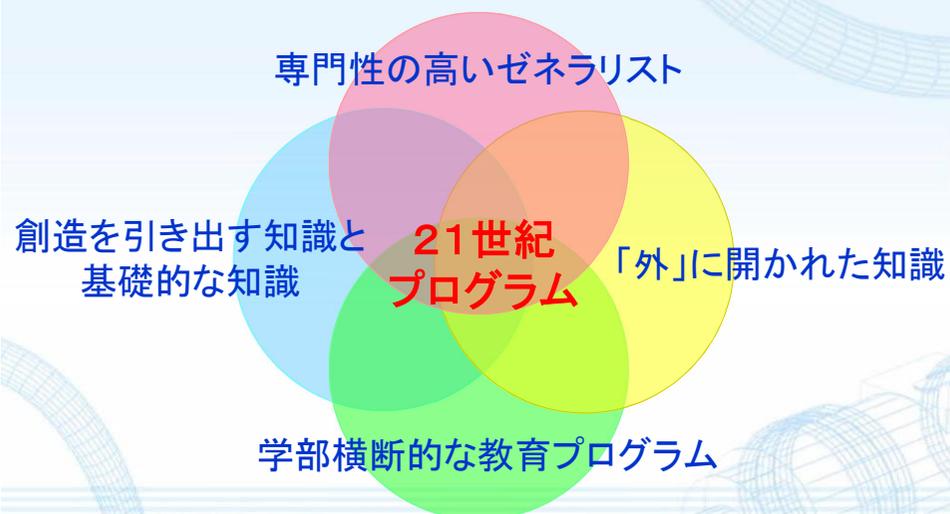


はじめに

- ◆ 全般的な事項について山下先生がご紹介くださった
 - ◆ ありがとうございました
- ◆ 「集団面接」についての過去の経験を少し紹介させていただく
- ◆ 九州大学 21世紀プログラムの入試全般を担当
- ◆ プログラム全体については2015年12月7日に紹介
 - ◆ 「思考力・表現力・協働性の評価を目指して」
 - ◆ 配布資料: stat.web.nitech.ac.jp/haifu/#Meikou1512
- ◆ 今回は第2次試験の「グループ討論(集団面接)部分」を中心に紹介

2

The 21st Century Program 理念



3

21世紀プログラム:教育の枠組み

2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



幅広い教養、表現力、国際性を身につけ、チューターの指導を受けつつ、
いろんな学部の専門を組み合わせ「自分だけの専門」を創る。

(※ 2001年から2017年に学生受け入れ。その後は共創学部の一部として継続。)

問題の発見とその解明をめざす自主性

文系理系にこだわらず
幅広く学びたい
という学問的関心

政治、社会、歴史、
文化、自然に対する
一定以上の教養

求める学生像
アドミッションポリシー
(AP)

学問を積極的に学びたい
という意欲や能力

語学力を身につけよう
という意欲

願書受付	9月下旬	9/16(水)~25(金)
	調査書, 志望理由書, 活動歴報告書	
第1次選抜	10月中旬 書類審査	10/16(金)頃 1次合格発表
第2次選抜	11月上旬	
第1日目	講義・レポート (3テーマ)	10/31(土)
第2日目	グループ討論, 小論文, 個人面接	11/ 1(日)
合格発表	11月下旬	11/25(水) 2次合格発表

選抜の過程が入学後の修学の過程

(日程は2016年度のもの)

第2次選抜



第1日目(土曜日)

9:30-11:30 **講義1・レポート1 (120分)**

12:30-14:30 **講義2・レポート2 (120分)**

15:00-17:00 **講義3・レポート3 (120分)**

軸が違う3テーマ
講義: 約50分
レポート: 約70分

講義や資料に
英語を含むことがある

第2日目(日曜日)

論題は当日朝に提示("予習"を避けるため)

9:00-11:30 **グループ討論 (150分)**

3つの講義から
2つを選んで討論

12:30-17:00 **小論文 (270分)、個人面接**

15分/人

3つの講義のいずれかに関連
するテーマを設定して作成

随時別室で休憩可

年度	題目
H24 (2012)	1 放射線と健康の科学
	2 歴史 学問と教科の間
	3 民主主義の根底にあるもの
H25 (2013)	1 「邪馬台国」と考古学 — 通説と考古学の間
	2 独裁体制はいかに維持されるのか
	3 The Wonder of Water (水の不思議)
H26 (2014)	1 心は物質に還元できるか?
	2 世界のイノベーション構造の変化 —「リバースイノベーション」, 「イノベーションのジレンマ」—
	3 生物の自己複製 — DNA複製からIPS細胞の作
H27 (2015)	1 身の回りの確率論 — 確率を使って —
	2 里地・里山の保全と農山村の持続性 ~人口減少社会と集中豪雨災害~
	3 古語は辺境に残る? — 言語史研究の方法 —
H28 (2016)	1 今, 生物多様性を考える ~地球規模の課題の解決のために~
	2 ものの見方を考える ~文化人類学の視点から~
	3 平等のための不平等? --- ポジティブ・アクションの是非 ---

☞ 楽しく受験することができてよかった
☞ いろんな方がいてとても楽しかった
☞ 心底惚れ込みました。絶対に来たい
☞ 大学の講義を聴いただけでも、
マ— 受けた甲斐があった...
☞ 何の話があるのか興味津々だった
☞ 受験と感じないほど明るい雰囲気
☞ 初めて会った人とも気軽に話



第2次選抜 グループ分け(討論、面接)

- ◆ 5面接室、各16名まで
 - ◆ 第1次成績を均等化
 - ◆ 右表をベースにし、加えて
 - ◆ 男女比が均等
 - ◆ 現浪比が均等
 - ◆ 地域性が均等
 - ◆ 同一高校別グループ
- になるようにグループを編成

面接室(教室)

あ	い	う	え	お
1 → 2	3	4	5	
10	9	8	7 ← 6	
↓				↓
11 → 12	13	14	15	
20	19	18	17 ← 16	
↓				↓
21 → 22	23	24	25	
30 ← 29	28	27	26	

第1次成績を基準に

グループ討論: 受験者側

- ◆ 進行方法
 - ◆ 1面接室あたり16名まで
 - ◆ 前日に聞いた3つの講義(テーマ)を基に、当日朝に渡される「論題」に基づいて意見を述べる
 - ◆ 個々の受験生は2つのテーマを自由に選ぶ(3つの中から)
 - ◆ 受験生の希望数に応じて150分を按分(含休み時間)
 - ◆ テーマ1つずつを区切って進行
 - ◆ 希望者が意見表明を終えた残りの時間は自由に意見発表
 - ◆ 発言は1回2分間まで(タイムキーパー役の教員が管理)
 - ◆ 教員は「なるべく発表の機会を均等に与える」進行を行う
 - ◆ 講義資料や論題、筆記用具等は持ち込み可。

The 21st Century Program 評価体制

1次	書類審査	2次	講義1	講義2	講義3
委員	●●●●	A委員	●●●●	●●●●	●●●●
志望理由書	全志願者 (116名)	レポート	●:主担当		
調査書等		小論文	全受験生(77名)		
活動歴報告書			選択した受験生		

他に監督等 5~10名

2次	あ	い	う	え	お
B委員	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
グループ討論	●:文系、●:理系、●:総括 / 3名中1名女性				
面接	1グループ受験生14~15名				

- ◆ 評価は、A~Dの4段階評価 (活動歴報告書は3段階評価)
- (人数は2016年度のもの)

グループ討論: 評価側

- ◆ グループ討論の目的
 - ◆ 自分の考え・意見を正確に表現する
 - ◆ 他人の意見との違いを理解し、新たなアイデアを提示する
 - ◆ 連携性・協調性・一貫性
- ◆ APとの整合性を観る
- ◆ 「一緒に研究活動・卒論を行いたい」を基準に
 - ◆ 教員同士での評価基準のすり合わせはしない
 - ◆ ルーブリックも存在しない
 - ◆ 制約と言えるのは、評価値の大まかな頻度の目安程度
- ◆ 「司会役」を買って出る行動・言動: 評価しない
 - ◆ リーダーシップの表現なのか? 2年に1度程度話題に
- ◆ 面接室間のバランス: 委員の配置に苦慮

評価方法

- ◆ 評価: A~D、Dには特別な意味 (第1次選抜の活動歴
報告書はA~C)
- ◆ 18個/名の評価: レポート・小論文+グループ討論・面接
[3委員x3テーマ] [3委員] [3委員] [3委員]
- ◆ 事前に決めたルールで1次元に順位付け
- ◆ 査定会議
 - ◆ 選抜作業に関係した35名程度で行う
 - ◆ レポート・小論文の評価、討論・面接時の対応
 - ◆ 第1次選抜の書類選考の評価も時には参考に
 - ◆ D評価を付けた理由については詳しく
 - ◆
- ◆ 26名(定員)の選抜に3時間は優にかかる
 - ◆ 手間はかかるが、
魅力的な学生の確保のためには避けられない

13

まとめに代えて

- ◆ 入試の目的: 「入学後の修学に耐えられるかを判断」
- ◆ 総合型選抜: 「選抜側の主観の持ち込みが許容される」
(旧AO入試) <====> 一般選抜
- ◆ 入試には手間がかかる <==== 「入り口管理」の国だから
 - ◆ 「出口管理」なら入試は簡略化できるであろう
- ◆ 採りたい学生像に応じて基準・選抜方法を策定
 - ◆ 集団面接の目的は? 何を観ようとしている?
 - ◆ APの策定、APとの整合性
- ◆ 選抜: 2群に分割する行為。不合格者が納得する理由付け。
 - ◆ 「公平性」の説明性: 総合型選抜ゆえの緻密さ
 - 選抜する側の倫理観、道徳観、“美学”、選別眼が求められる。

14